

平成 26 年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」
共同利用・共同研究個人型共同利用の成果報告書
「ソ連の公式言説における第二次大戦の記憶化の総合的研究」

前田しほ

研究概要

報告者は、20 世紀後半のソ連・共産圏における第二次大戦に関する記憶を研究している。特に近年は戦争記念碑の現地調査に力を入れ、データベースの作成・分析を進めている。その結果、①国内外で記念碑のメディアとしての機能が異なること、②ソ連邦内でも戦争の記憶化に地域性が見られること、③時代によって記念碑のデザイン・設立主体・視覚化される体験が異なること、④特に、ソ連崩壊に伴い、社会の記念碑への態度が著しく変化し、撤去あるいは修復・新築が進み、地域によってはかつてどのような記念碑がどこにあったのか追うことが困難になりつつあること、等が判明した。本研究課題では、これらフィールドワークの成果の分析・考察を深めることをめざし、公定記憶の変遷を明らかにするため、また先行研究及び当時の新聞記事等政府の公式見解にあたって推論を精査・検証するため、北海道大学図書館及びスラブ・ユーラシア研究センター所蔵の資料を利用したものである。

調査成果

- (1) 戦時中から現在にいたる 2014 年 9 月、2015 年 2 月の二回にわたり滞在し、本館図書館と電子ジャーナルと主に活用した。
- (2) 1950 年から 1985 年までの戦勝記念日前後 1 か月にコムソモーリスカヤ・プラウダをあたり、戦争に関する記事を抜き取って複写した。新聞の大判製本を扱うのは体力的に大変な作業で、時間的な制約もあったので、5 年ごとの記念年に対象を限定せざるをえなかったが、それでも、時代性を顕著に読み取ることができる。建設当時の記念碑の写真や式典の様子をうかがい知ることができた。今後丹念に記事を読み込み、検証したい。
- (3) 事前にリストアップしていったため、英語電子ジャーナルとロシア語雑誌から効率的にダウンロードないしスキャンを行うことができた。所属先では閲覧できない雑誌のバックナンバーにあたる時間もできたので、先行研究を網羅することができた。今後研究を深めるにあたって、貴重な機会をいただき感謝している。
- (4) 1990 年代以前の出版物は購入しにくいいため、これも事前にリストアップして北大での所蔵先を確認してから、効率的に借り出し・スキャンをすることができた。書庫内で複写した新聞を除き、すべての資料を電子化できたため非常に便利であった。施設利用に配慮いただいた図書館・センター職員の方々、そして全面的にサポートいただいた原田千里さんに感謝申し上げたい。